

伝統芸能歌舞伎の海外展開に対する考察

弁護士知財ネット
ジャパンコンテンツ調査研究チーム
(東京弁護士会所属)
弁護士 鶴 由貴

1 はじめに

経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課（クリエイティブ産業課）で進められているクールジャパン政策は、国内人口の減少等による内需の減少と、コンテンツ、ファッション、地域産業、サービスなどの分野に注目し、日本の魅力を展開し、海外需要の獲得と共に関連産業の雇用を創出する狙いで進められています¹。日本の魅力の展開ということで、これまでは、コンテンツ、ファッション、衣食住、サービス、地域特産などに注目されてきましたが、本稿では、日本の伝統芸能である「歌舞伎」の海外展開について、本年5月3日から同月7日まで、ラスベガスで行われた歌舞伎公演をご紹介します。考察したいと思います。

2 歌舞伎とは

歌舞伎は、慶長8年（1603年）に京都で出雲大社の巫女という阿国が、男装をして踊ったことが始まりと言われています。当初は女性が舞台に立っていましたが、寛永6年（1629年）前後に女性が舞台に立つということは風俗を乱すという理由で禁令が出されるようになり、以後は男性のみが舞台に立つ形式で、現在に至っています²。すなわち、宝塚とは逆に、男性が女性の役も務め、男性の役を務める俳優を「立役」、女性の役を務める俳優を「女形」と言っています。

本年で言えば、歌舞伎は413年の歴史を有する伝統芸能ということになります。

歌舞伎は、古くは昭和3年8月から海外でも公演されています。歌舞伎座においても、外国人向けのイヤホンガイドや字幕ガイドが準備されるようになるなど、外国人にも楽しめるよう工夫されていますし、外国人向けのツアーとして歌舞伎を観劇するコースが組まれています。

但し、日本人でも昔の言葉で上演されるため、言葉を聞いて直ぐに理解できないことも多いですし、現代ではおよそ意識としては薄い「忠義」から切腹したり、我が子を身代わりにしたり殺したりするという話の内容自体に理解ができない人も多く、「歌舞伎は難しい」、「自分には分からない」と考えて自ら歌舞伎の観劇への敷居を高くしている方も多いと思います。このことは、外国人であれば更に理解が難しいところでもあり、解説を聞いても、何故切腹するのが分から

1 経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課作成の2016年6月「クールジャパン政策について」。

2 歌舞伎への誘い (<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/index.html>)